

## 看護されたい人との出会い

紅葉したモミジの葉っぱが、2葉、ついで、それを、病院食のおかず用お皿の上に、何気なく置いておきました。

食後、やって来た看護師さんが、「全部食べましたか？」と、フタをとったとき、目が点に。

「えっ、何、これ、料亭みたい。まさか病院食についていたんじゃないですね。栄養士さん、そんなことしないもの。洗って押し花にしようかな。明日、完成品をお見せしますから」

何ともいえない笑顔でいきました。

翌日、その看護師さんが、「私、とてもショックなことがあったんです」と。「えっ、どうしたの？」と尋ねました。「きれいに洗ってちゃんとトレイに乗せて、乾かしておいたモミジ、誰かに捨てられたみたい。夜勤とかで、紅葉をゆっくり楽しむ機会なんてないので、とても楽しみにしていたのに。親方に、ごめんなさいと伝えておいてください」

何と感性が豊かな方なのでしょう。いつも患者さんの様子をうかがいながら、仕事を進めていく、こういう人に看護されたいものですね。

## ITへの過信は禁物

医療機関では間違いを防ぐため、ITを駆使して、本人確認が徹底されています。また、昔ながらに、名前と生年月日を、ことあるごとに聞かれます。

そもそも、入院すると、本人認証のためのバーコードつきの腕輪を、はめられ

## 店頭から にんにちは

第136回

誤作動があることを忘れるべからず  
医療の現場で求められる人間力

入院中、病院食に飽きぎみになったとき、妻がお弁当の差し入れを。料理屋の親方に、特別に作ってもらったのです。



るのです。点滴の交換時や検査のときなどには、必ずピッとバーコードを読み、パソコンに取り込み、確認しています。

看護師さんが、「点滴の交換をします」といいながら、手首の患者認識バーコードと、点滴のおクスリのバーコードをスキャンしたときのこと。何と、パソコンの画面が真っ赤になりました。

間違いを知らせてくれたようです。

もちろん、患者には何もいわず、そっとナースステーションで、正しいおクスリに交換してきて、他人の点滴を打たれなくて無事でした。

実は、「接触が悪いのかな」といいながら、スキャナーのUSBコネクタを差し替えて、正常にバーコードを読めるようになったことも。

機器の誤動作も皆無ではありませんので、ITを過信していると大変です。

最近、サイバー攻撃によって、病院のシステムが異常になり、病院の機能が完全にストップするという事態もありました。

前出の感性豊かで、経験や勘の鋭さを兼ね備えた看護師さんのような人間力は、まだまだ捨てられませんか。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表

薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ

宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「季節の変化を楽しみたいものですね」

